

「花粉症の正体」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

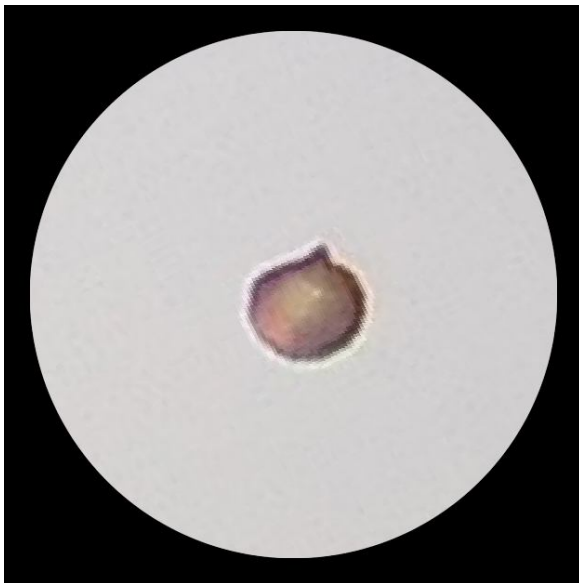
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

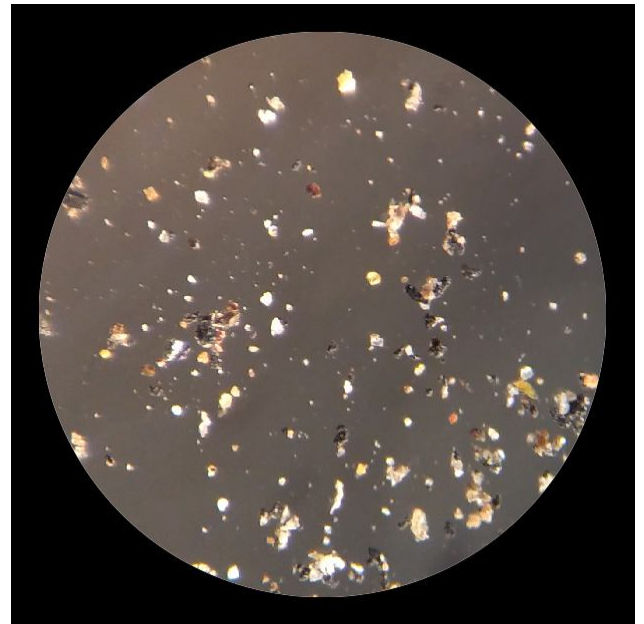
今年も「花粉症の季節」がやってきた。幸い私は軽症なのだが、周囲には重症の人もいて「くしゃみ7連発」という、中国花火なみの激しい症状の気の毒な方も多い。



激しいアレルギー反応を起こす花粉は、このアサガオの花粉のような「トゲトゲ」の、コロナウィルスに似た形を想像するが、実はちがう。



これがスギ花粉の正体だ。虫媒花のアサガオ花粉とちがって、非常に小さい。800 倍に拡大しても、この程度だ。意外にもリンゴのような可愛いらしい形で、顔を描けば「スライム」のような感じだ。



この季節、屋外に固定されているものの上にたった「ほこり」には、必ずスギ花粉が含まれている。写真は昨日小石川五丁目の郵便ポストの上で採取した「ほこり」の顕微鏡画像だ。「透過光」ではなく「反射光」で撮影しているので、実際の対象物の色に近い。ほとんどは石英、磁鉄鉱、長石などの鉱物（砂）だ。中央右上のスギ花粉がわかるだろうか？



スギ花粉は、教材業者から顕微鏡観察用のプレパラートが販売されている。しかし、今の時期ならそれを購入するまでもなく、教室テラスにスライドを 10 分ほど放置すれば、ほぼ確実にスギ花粉を採取できる。写真は 10 分放置後の 100 倍画像（透過光）だ。何もついていなかった新品のスライド上に、すでに 3 個のスギ花粉が確認できた。スギ花粉の直径は **0.004mm** 程度で、この画像の視野もわずか **0.2mm²** 程度しかない。いかに多くの花粉が飛んでいるか実感できる。